

行なえるアントラセン法を開発できたので、この問題も正確なデーターを基礎に論議されるものと思っている。

②については44年度から特別研究「森林生態系におよぼす影響とその調査方法」に着手しているが、このテーマの一部としてミヤコザサ枯殺後の植生変化と、④の残留移動を分担している。

林業はさきへのべたように本格的な除草剤の導入が最近のことであるし、苗畑は別として農業とは異なった除草剤が使用されていること、実用化試験に重点をおいてきたことなどから、基礎資料の不足が目立つ。これから着実な発展を期待するにはどうしても基礎研究の充実を急がねばならないと思っている。このため③、④

は基礎研究に重点をおいている。

⑤については過去における実績もあるため、赤沼試験地と共同で基礎よりも実用化試験を主体に行なっている。43年度はトリフルラリンの導入試験を行ない好成績をえている。

2か年一緒に苦勞してもらった荒木氏は本年4月古巣の営林局にかえり、かわって東北支場より大場君を迎えた。荒木氏は営林局でも除草剤を担当し相変らずのはりきりようである。2か年の経験を大いに現場に生かしてほしいと思っている。

まだヨチヨチ歩きの研究室であるが、研究員一同大方のご指導とご援助をえて、少しでも役に立つ研究をするよう必掛けたいと思っている。

(筆者は 除草剤研究室長)

昭和43年度冬作, 44年度夏作芝生関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和43年度冬作, 44年度夏作芝生関係除草剤の試験成績検討会は、去る10月17日、東京(新日本会館)において開催された。会議は、当協会河田会長の司会により、試験担当者の概要報告と実用化判定審査の順で行なわれた。

また、展示圃関係もあわせて検討された。

ここに、その結果の概要を紹介する。

(1) 供試除草剤

昭和43年度冬作, 44年度夏作芝生関係除

草剤の供試薬剤は<表1>の通り6薬剤であったが、このうち4薬剤は新薬剤(※印)である。

(2) 試験結果の概要

次に、試験結果の概要を、判定規準によってみると<表2>の通りで、実用化に移されたものは1薬剤である。

実用化薬剤の使用基準は、<表3>の通りである。

<第1表> 供 試 薬 剤 成 分 一 覧 表

薬 剤 名	剤 型	有 効 成 分 及 含 有 率	委 託 メ ー カ ー
※ M & B 9 0 5 7	液	メチル4-アミノベンゼンスルフォニル カーバメイト 40%	塩 野 義 製 薬
※ G W - 1	粉	未 公 開 95%	日 本 ガ ス 化 学 工 業
※ ネ ブ ロ ン	水 和	3-(3,4-ジクロロフェニル)-1- ブチル-1-メチル尿素 60%	デ ュ ボ ン ・ フ ァ ー イースト日本支社
※ N T N - 5 0 0 6	乳	未 公 開 30%	日 本 特 殊 農 薬 製 造
H - 6 4 2	乳	MCPベンジルトリエタノール アンモニウム塩 40%	東 京 有 機 化 学 工 業

<展示圃関係>

薬 剤 名	剤 型	有 効 成 分 及 含 有 率	委 託 メ ー カ ー
D I C - A Z A K	水 和	2,6-ジ-tert-ブチル-P-トリルN メチルカーバメイト 40% 2-メチル4-クロロフェノキシアセト ヒドラジド 30%	大 日 本 イ ン キ 化 学 工 業

<第2表> 実 用 化 判 定 表

実 用 化	実 ~ 継	継 続	継 続 ?	中 止
H - 6 4 2		ネ ブ ロ ン G W - 1 N T N - 5 0 0 6 M & B 9 0 5 7		M & B 9 0 5 7 (夏季生育期処理)

<第3表> 実 用 化 除 草 剤 使 用 基 準 一 覧

薬 剤 名	処 理 時 期	使用量 (製品g/a)	適 用 芝 生
H - 6 4 2	雑草発芽前処理	300	コ ウ ラ イ 芝